

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：32645

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K08705

研究課題名(和文)唾液腺導管癌のテーラーメイド治療へ向けた分子病理学的解析：大規模多施設共同研究

研究課題名(英文)Molecular Pathological Analysis in Salivary Duct Carcinoma from the perspective on the Development of the Personalized Treatments: A Large Multicenter Cooperative Study.

研究代表者

長尾 俊孝(Nagao, Toshitaka)

東京医科大学・医学部・主任教授

研究者番号：90276709

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：唾液腺導管癌(SDC)は病理組織学的に高度の核多形性、核分裂像、低分化胞巣、静脈侵襲が予後不良因子であり、これらを組み合わせたリスク分類は予後と強い相関を示した。また免疫組織化学的検討でAR低発現、p53異常発現、FOXA1低発現、adipophilin高発現が予後不良因子であった。遺伝子変異解析ではTP53変異が予後不良因子として同定された。AR、HER2、Ki-67の発現形式でSDCを5つに分類すると、'apocrine A'が予後不良を示した。この分類を基にAR陽性、HER2陽性を示すSDCにそれぞれ複合アンドロゲン遮断療法、抗HER2療法を行う臨床第II相試験を実施し高い奏効率を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

唾液腺導管癌(SDC)は比較的稀な組織型のため少数例での検討しかされておらず、本研究のような大規模なSDCの解析は世界的にも類を見ない。SDCの各種バイオマーカーの発現様式や遺伝子異常と臨床病理学的特徴との関連を明らかにすることで、実臨床において正確な予後予測や適切な治療法選択に寄与すると考えられる。また、我々が行ったSDCに対する複合アンドロゲン遮断療法と抗HER2療法は共に、世界初の前向き臨床試験であり、その成果は米国NCCNガイドライン最新版に反映されている。これはSDCに対する個別化治療を確立し、当該患者の予後やQOLの改善に繋がる成果であり、大変意義深い。

研究成果の概要(英文)：In salivary duct carcinoma (SDC), a histological analysis revealed that prominent nuclear pleomorphism, high mitoses, high poorly differentiated clusters, and vascular invasion were poor prognostic factors. Histologic risk stratification model, based on above 4 prognostically relevant parameters, could effectively predict patient survival. Immunohistochemically, low AR, p53-extreme negative/positive, low FOXA1, and high adipophilin expression were associated with poor prognosis. Furthermore, patients with SDC harboring TP53 mutations showed shorter survival rate. We categorized All SDCs into four main subtypes pursuant to a combination of the expression of AR, HER2, and Ki-67. Consequently, patients with 'apocrine A' displayed a better progression-free survival than those with any other subtypes. Based on this classification, we conducted phase II trial of anti-AR and HER2 therapies in patients with AR- and HER2-positive SDCs. These therapies demonstrated high efficacy.

研究分野：人体病理学(特に唾液腺腫瘍)

キーワード：唾液腺癌 バイオマーカー 予後 唾液腺導管癌 HER2 AR TP53 人体病理学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

唾液腺導管癌 (Salivary duct carcinoma; SDC) は、1991 年の WHO 分類第 2 版で初めて独立した分類となった腫瘍である。SDC は病理学的に浸潤性乳管癌に類似した組織型を呈することが特徴である。しかし、比較的新しい疾患概念であること、症例数が少ないこと、一般的に唾液腺癌は多彩な組織像を示すこと、などの理由から、SDC の病理診断は難しく、それには唾液腺を専門とする病理医の判断が必要不可欠である。SDC を対象とする臨床研究には、正確な病理診断に基づいた解析を行わなければならないが、今までの研究の多くはそれがなされていないことが大きな問題点となっている。

SDC は唾液腺悪性腫瘍の中でも著しく予後不良であり、特に高率に遠隔転移を来すことが治療を困難にしている。SDC 142 例を追跡した申請者らの検討によれば、3 年粗生存率は 70.5% であり、原病死した 44 例中 33 例 (75%) に遠隔転移を認めた (Otsuka K, Tada Y, Nagao T, et al. Ann Surg Oncol, 2016)。また、今までの免疫組織化学的検討では、相当数の SDC において androgen receptor (AR), p53, HER2, EGFR が陽性を示すことが知られており、申請者らが過去に行った少数例の検討では、AR 陰性が独立した予後不良因子であった (Masubuchi T, Tada Y, Nagao T, et al. Int J Clin Oncol, 2014)。しかし、多数例の報告例はほとんどなく、種々のバイオマーカーの予後予測因子としての意義については未だ不明な点が多いのが現状である。

SDC は遠隔転移を高率に生じることから、予後を改善するためには全身治療法の開発が期待されている。抗癌化学療法に関しては、奏効率が 30% 内に留まっており、有意な有効性が確認された治療法は未だ存在しない。したがって、再発転移例では、wait-and-watch policy も選択肢とされている。切除不能の SDC 症例における新しい治療法として申請者らは、HER2 陽性例に対しては乳癌治療に準じた trastuzumab と docetaxel の併用療法、また AR 陽性例に対しては前立腺癌治療に準じた leuprorelin acetate と bicalutamide の併用療法の効果と安全性を臨床第 II 相試験で検証中であり、その中間解析では奏効率がそれぞれ 69%、48% と過去に例のない良好な結果が得られている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、多施設で治療した過去の報告に例のない程の多数の SDC 症例を集積し、SDC の予後予測や病態の解明、新規治療法の効果予測に關与する様々なバイオマーカーを同定し、SDC における適切な術式や薬剤および放射線治療の選択などの治療方針の決定、さらには予後の改善に役立てることである。

3. 研究の方法

研究対象は、多施設共同研究 (申請者所属施設を中心に全国 10 施設) により、本研究代表者 (唾液腺専門病理医) によって病理学的再検討後の SDC 症例約 160 例の標本 (各症例 HE 染色標本 1 枚と未染標本 40 枚) と、連結不可能匿名化された臨床情報である。

病理組織学的解析

SDC 症例の HE 標本を用いて、以下の 16 項目について病理組織学的所見を詳細に観察し、データベースを作成する。(1) 核多形性、(2) 核の大きさ、(3) 核分裂像スコア (10HPFs)、(4) 腺管形成の程度、(5) リンパ管侵襲の程度、(6) 静脈侵襲の程度、(7) 神経周囲浸潤の程度、(8) *de novo* 癌か多形腺腫由来癌か、(9) 簇出の程度、(10) 低分化胞巣の程度、(11) 腫瘍間質比、(12) コメド壊死の有無、(13) 組織学的グレード (乳癌に準じ、腺管形成、核異型、核分裂像をスコア化したもの)、(14) 核グレード (乳癌に準じ、核異型と核分裂像をスコア化したもの) の合計 16 項目。

免疫組織化学的染色

AR, ER β , EGFR, HER2, HER3, MUC1, PLAG1, p53, CK5/6, Ki-67, PI3K, p-Akt, p-mTOR, PTEN, FOXA1, adipophilin, FASN について免疫組織化学的に検討し、データベースを作成する。AR, ER β , HER2, HER3, EGFR の判定基準は、乳癌におけるものに従う。Ki-67 標識率は、hot spot 領域にて腫瘍細胞 1000 個以上中の陽性細胞を率で求める。

Fluorescence in situ hybridization (FISH) 法

HER2 と EGFR 遺伝子の増幅について FISH 法にて評価を行う。なお、乳癌の基準に従い、免疫組織化学で 3+ または FISH 法にて遺伝子増幅のあった症例を陽性と判定する。

DNA 解析

Hematoxylin 染色標本から癌部を選択して DNA を抽出する。TP53, PIK3CA, AKT1, K-RAS, N-RAS, H-RAS, BRAF, FOXA1 遺伝子変異を DNA シークエンス法にて解析する。

統計解析

(1) 唾液腺導管癌の予後予測因子の同定

患者の粗生存期間と無増悪生存期間を Kaplan-Meier 法により分析する。これらと関連する臨床的および病理学的因子を log-rank 検定を用いた単変量解析で抽出する。さらに、Cox 比例ハザードモデルを用いた多変量解析により、独立した予後予測因子の同定を行う。

(2) 唾液腺導管癌に対する新しい薬物療法の治療効果予測因子の同定

申請者らの施設で行っている trastuzumab と docetaxel の併用療法または leuprorelin acetate と bicalutamide の併用療法を受けた切除不能 SDC 患者を対象とする。症例は、治療効果判定で PR

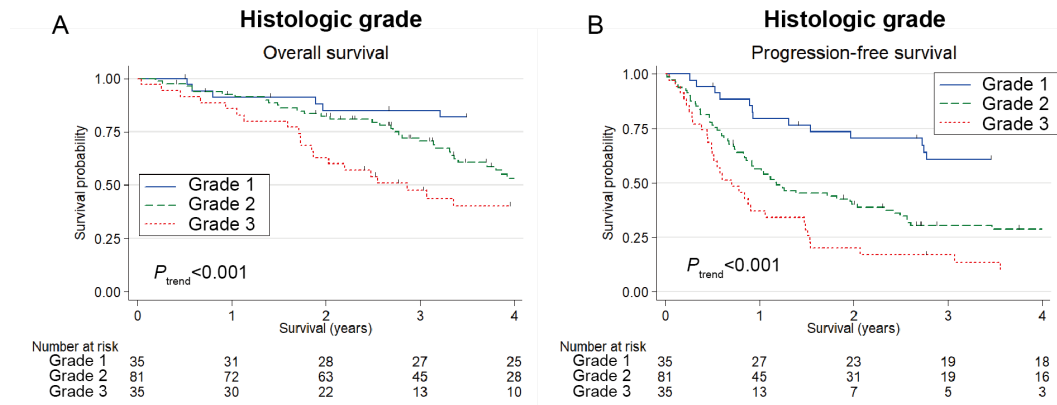
もしくはCRとなった奏効群とSDもしくはPDとなった無効群の2群に分け、それらと臨床病理学的因子との関連を Pearson のカイ二乗検定を用いて比較検討する。また、粗生存期間と無増悪生存期間を Kaplan-Meier 法により分析するとともに、これらと関連する臨床病理学的因子を単変量および多変量解析により同定する。

4. 研究成果

SDC の予後因子の同定

病理組織学的解析で、高度の核多形性、核分裂像、低分化胞巣、静脈侵襲は予後不良因子であり、これらを組み合わせた組織学的リスク分類は予後と強い相関を示した(図1)。また、免疫組織化学的検討で AR 低発現, FOXA1 低発現, p-Akt 低発現, cytokeratin 5/6 高発現, adipophilin 高発現、および p53-extreme negative/positive が予後不良因子となりうることを報告した。遺伝子変異解析では、TP53 truncating mutations が予後不良因子として同定された。更に治療標的となりうる PIK3CA, H-RAS, BRAF, ATK1 変異が見出された。

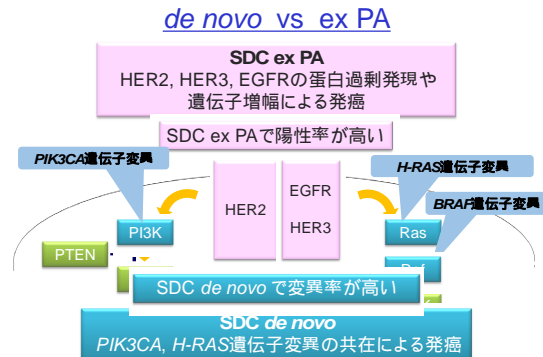
図1



Nakaguro M, Tada Y, Nagao T, et al. Am J Surg Pathol, 2020

図2

組織発生による SDC の発癌機序の違い
HER2 シグナル経路を主とする発癌に関連した蛋白を、免疫組織化学的発現や遺伝子変異に着目して検討したところ、*de novo* 発生 SDC は、多形腺腫由来 SDC に比べて、PIK3CA, H-RAS, BRAF 変異が有意に高率であった。一方、多形腺腫由来 SDC では HER2, HER3, EGFR の蛋白過剰発現を示す症例が有意に多く、SDC の発癌機序はその組織発生により異なる可能性が示唆された(図2)。



Shimura T, Tada Y, Nagao T, et al. Oncotarget, 2018

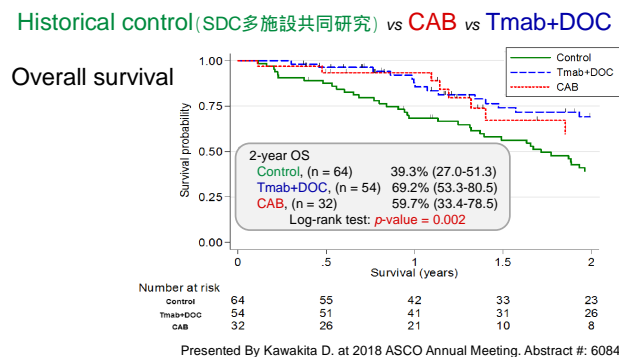
SDC におけるサブタイプ分類の提唱

乳癌では免疫染色の発現様式によるサブタイプ分類が提唱され、予後の推定や治療薬剤の選択に有用であることが認知されている。我々は、乳癌に倣い、新たに AR, HER2, Ki-67 の発現様式により SDC を5つのサブタイプ(‘apocrine A’, ‘apocrine B’, ‘apocrine HER2’, ‘HER2-enriched’, ‘double negative’)に分類した。予後解析では、‘apocrine A’(AR+/HER2-/Ki-67-low)が他のサブタイプより無病生存期間が有意に長かった。

サブタイプ分類に基づく治療法の開発

上記分類をもとに、AR 陽性例に対し leuprorelin acetate と bicalutamide の併用療法を、HER2 陽性例に対し trastuzumab と docetaxel の併用療法を、選択することが適していると仮定し、切除不能・再発転移 SDC に対して 臨床第 II 相試験を行った。従来の化学療法と比べ、CAB 療法は同等の治療効果ながら、有害事象が著明に軽微であった。抗 HER2 療法は、化学療法に比べ治療効果が高く、しかも有害事象がやや少ないことが判明した(図3)。今回は研究期間内にこれらの新しい治療法の効果予測因子の探索が十分に行えなかったため、今後の課題である。

図3



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計66件（うち査読付論文 62件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 28件）

1. 著者名 Obikane Hiyo, Fujiyoshi Toshiki, Takahashi Satoshi, Ogino Hitoshi, Matsubayashi Jun, Nagao Toshitaka, Ishibashi-Ueda Hatsue	4. 巻 46
2. 論文標題 Giant cell arteritis in a patient with aortic dissection: a case report	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cardiovascular Pathology	6. 最初と最後の頁 107206 ~ 107206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.carpath.2020.107206	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshima Kenzo, Nagao Toshitaka, et al	4. 巻 -
2. 論文標題 Cytology Reporting System for Lung Cancer from the Japan Lung Cancer Society and Japanese Society of Clinical Cytology: An Interobserver Reproducibility Study and Risk of Malignancy Evaluation on Cytology Specimens	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Acta Cytologica	6. 最初と最後の頁 1 ~ 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000506431	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto Takeshi, Nagao Toshitaka, et al	4. 巻 25
2. 論文標題 The significance of micro-lymphatic invasion and pathological Gleason score in prostate cancer patients with pathologically organ-confined disease and negative surgical margins after robot-assisted radical prostatectomy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Int J Clin Oncol	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ito Tatsuya, Nagao Toshitaka, et al	4. 巻 -
2. 論文標題 Neck dissection prolongs survival in patient with stage IVC hypopharyngeal carcinoma with mixed responses to nivolumab	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Auris Nasus Larynx	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murata Kazuma, Endo Kenji, Aihara Takato, Matsuoka Yuji, Nishimura Hirotsuke, Suzuki Hidekazu, Sawaji Yasunobu, Yamamoto Kengo, Fukami Shinjiro, Tanigawa Maki, Matsubayashi Jun, Nagao Toshitaka, Imai Reiko	4. 巻 28
2. 論文標題 Salvage carbon ion radiotherapy for recurrent solitary fibrous tumor: A case report and literature review	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Orthopaedic Surgery	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2309499019896099	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirai Hideaki, Tada Yuichiro, Nagao Toshitaka, et al.	4. 巻 -
2. 論文標題 The clinicopathological significance of the adipophilin and fatty acid synthase expression in salivary duct carcinoma	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Virchows Arch	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakaguro Masato, Urano Makoto, Ogawa Ikuko, Hirai Hideaki, Yamamoto Yoshinari, Yamaguchi Hiroshi, Tanigawa Maki, Matsubayashi Jun, Hirano Hiroshi, Shibahara Junji, Tada Yuichiro, Tsuzuki Toyonori, Okada Yasuo, Sato Yuichiro, Ikeda Kenichiro, Sukeda Aoi, Honda Yumi, Mikami Yoshiki, Nagao Toshitaka	4. 巻 76
2. 論文標題 Histopathological evaluation of minor salivary gland papillary cystic tumours: focus on genetic alterations in sialadenoma papilliferum and intraductal papillary mucinous neoplasm	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Histopathology	6. 最初と最後の頁 411 ~ 422
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/his.13990	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kamoda Naohiro, Ohori Makoto, Hirasawa Yosuke, Inoue Rie, Hashimoto Takeshi, Satake Naoya, Gondo Tatsuo, Nakagami Yoshihiro, Nagao Toshitaka, Ohno Yoshio	4. 巻 49
2. 論文標題 Prognostic significance of the presence of tertiary Gleason grade 5 in robot-assisted radical prostatectomy specimens in Japanese patients with clinically localized prostate cancer	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 276 ~ 280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyy194	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ueda Kaori, Murase Takayuki, Nagao Toshitaka, et al	4. 巻 -
2. 論文標題 Central pathology review of salivary gland adenoid cystic carcinoma	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Head & Neck	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hed.26081	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Umehara Ryunosuke, Kurata Atsushi, Takanashi Masakatsu, Hashimoto Hirotsugu, Fujita Koji, Nagao Toshitaka, Kuroda Masahiko	4. 巻 38
2. 論文標題 Fascin as a Useful Marker for Identifying Neural Components in Immature Teratomas of Human Ovary and Those Derived From Murine Embryonic Stem Cells	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Gynecological Pathology	6. 最初と最後の頁 377 ~ 385
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/PGP.0000000000000528	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hatabu Naomi, Katori Naho, Sato Takeshi, Maeda Naonori, Suzuki Eri, Komiyama Osamu, Tsutsui Hidemitsu, Nagao Toshitaka, Nakauchi-Takahashi Hana, Matsunaga Tatsuo, Ishii Tomohiro, Hasegawa Tomonobu, Yamazawa Kazuki	4. 巻 92
2. 論文標題 A Familial Case of a Whole Germline CDC73 Deletion Discordant for Primary Hyperparathyroidism	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hormone Research in Paediatrics	6. 最初と最後の頁 56 ~ 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000495800	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakaguro Masato, Nagao Toshitaka, et al	4. 巻 44
2. 論文標題 Prognostic Implication of Histopathologic Indicators in Salivary Duct Carcinoma	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The American Journal of Surgical Pathology	6. 最初と最後の頁 526 ~ 535
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/PAS.0000000000001413	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kikuchi Kentaro, Nagao Toshitaka, et al	4. 巻 13
2. 論文標題 Palatal Polymorphous Adenocarcinoma with High-Grade Transformation: A Case Report and Literature Review	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Head Neck Pathol	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kokubo Reiji, Saito Kazuhiro, Shirota Natsuhiko, Wakabayashi Yukari, Tsuchida Akihiko, Nagai Takeshi, Nagao Toshitaka	4. 巻 14
2. 論文標題 A case of primary clear cell hepatocellular carcinoma comprised mostly of clear cells	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Radiology Case Reports	6. 最初と最後の頁 1377 ~ 1381
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.radcr.2019.08.021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyazaki Masaru, Aoki Mikiko, Koga Kaori, Hamasaki Makoto, Sugiyama Yoshikazu, Midorikawa Kensuke, Hamatake Daisuke, Masaki Michio, Takamatsu Yasushi, Iwasaki Akinori, Sakata Toshifumi, Nagao Toshitaka, Nabeshima Kazuki	4. 巻 46
2. 論文標題 Adenoid cystic carcinoma with high-grade transformation forming spindle cell component of the submandibular gland	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Auris Nasus Larynx	6. 最初と最後の頁 934 ~ 939
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.anl.2019.01.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Komatsu Hirokazu, Kumoi Kazuo, Inokuchi Go, Hashimoto Kimio, Nagao Toshitaka, Otsuki Naoki, Nibu Ken-ichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Keratocystoma of the parotid gland	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Auris Nasus Larynx	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.anl.2019.05.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsubayashi Jun, Miyake Shinji, Kudo Yujin, Shimada Yoshihisa, Maeda Junichi, Saji Hisashi, Kakihana Masatoshi, Park Jinho, Kajiwara Naohiro, Inoue Shigeru, Saito Kazuhiro, Ohira Tatsuo, Ikeda Norihiko, Tokuyue Koichi, Nagao Toshitaka	4. 巻 -
2. 論文標題 Cytological differences between invasive and noninvasive or minimally invasive lung adenocarcinomas diagnosed in Japanese patients using needle biopsy specimens of pulmonary lesions 3 cm in diameter	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Diagnostic Cytopathology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/dc.24171	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asaoka Mariko, Narui Kazutaka, Suganuma Nobuyasu, Chishima Takashi, Yamada Akimitsu, Sugae Sadatoshi, Kawai Saori, Uenaka Natsuki, Teraoka Saeko, Miyahara Kana, Kawate Takahiko, Sato Eichi, Nagao Toshitaka, Matsubara Yuka, Gandhi Shipra, Takabe Kazuaki, Ishikawa Takashi	4. 巻 45
2. 論文標題 Clinical and pathological predictors of recurrence in breast cancer patients achieving pathological complete response to neoadjuvant chemotherapy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 European Journal of Surgical Oncology	6. 最初と最後の頁 2289 ~ 2294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ejso.2019.08.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akimoto Jiro, Nagao Toshitaka, et al	4. 巻 36
2. 論文標題 First autopsy analysis of the efficacy of intra-operative additional photodynamic therapy for patients with glioblastoma	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Brain Tumor Pathol	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsunaga Ryo, Takahashi Yasuhito, Takahashi Reisuke H., Nagao Toshitaka, Shishido Takaaki, Tateiwa Toshiyuki, Pezzotti Giuseppe, Yamamoto Kengo	4. 巻 99
2. 論文標題 A new method for diagnosing biochemical abnormalities of anterior cruciate ligament (ACL) in human knees: A Raman spectroscopic study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Acta Biomaterialia	6. 最初と最後の頁 284 ~ 294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.actbio.2019.09.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kurata Atsushi, Saito Akira, Hashimoto Hirotsugu, Fujita Koji, Ohno Shin-ichiro, Kamma Hiroshi, Nagao Toshitaka, Kobayashi Shigeto, Yamashina Akira, Kuroda Masahiko	4. 巻 29
2. 論文標題 Difference in immunohistochemical characteristics between Takayasu arteritis and giant cell arteritis: It may be better to distinguish them in the same age	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Modern Rheumatology	6. 最初と最後の頁 992 ~ 1001
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14397595.2019.1570999	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seethala Raja R., Altemani Albina, Ferris Robert L., Fonseca Isabel, Gnepp Douglas R., Ha Patrick, Nagao Toshitaka, Skalova Alena, Stenman G?ran, Thompson Lester D. R.	4. 巻 143
2. 論文標題 Data Set for the Reporting of Carcinomas of the Major Salivary Glands: Explanations and Recommendations of the Guidelines From the International Collaboration on Cancer Reporting	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Archives of Pathology & Laboratory Medicine	6. 最初と最後の頁 578 ~ 586
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5858/arpa.2018-0422-SA	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakai Kazuko, Ohira Tatsuo, Matsubayashi Jun, Yoneshige Azusa, Ito Akihiko, Mitsudomi Tetsuya, Nagao Toshitaka, Iwamatsu Emi, Katayama Jin, Ikeda Norihiko, Nishio Kazuto	4. 巻 110
2. 論文標題 Performance of Oncomine Fusion Transcript kit for formalin fixed, paraffin embedded lung cancer specimens	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.14016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okada Takuro, Nagao Toshitaka, Tada Yuichiro, et al	4. 巻 33
2. 論文標題 Carboplatin and Docetaxel in Patients With Salivary Gland Carcinoma: A Retrospective Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 In Vivo	6. 最初と最後の頁 843 ~ 853
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21873/invivo.11549	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Urano Makoto, Nakaguro Masato, Yamamoto Yoshinari, Hirai Hideaki, Tanigawa Maki, Saigusa Natsuki, Shimizu Akira, Tsukahara Kiyooki, Tada Yuichiro, Sakurai Kouhei, Isomura Madoka, Okumura Yuki, Yamaguchi Hiroshi, Matsubayashi Jun, Nagao Toshitaka	4. 巻 43
2. 論文標題 Diagnostic Significance of HRAS Mutations in Epithelial-Myoepithelial Carcinomas Exhibiting a Broad Histopathologic Spectrum	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The American Journal of Surgical Pathology	6. 最初と最後の頁 984 ~ 994
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/PAS.0000000000001258	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Hideaki, Tada Yuichiro, Saotome Takashi, Akazawa Kohei, Ojiri Hiroya, Fushimi Chihiro, Masubuchi Tatsuo, Matsuki Takashi, Tani Kaori, Osamura Robert Y., Hirai Hideaki, Yamada Shuhei, Kawakita Daisuke, Miura Kouki, Kamata Shin-etsu, Nagao Toshitaka	4. 巻 37
2. 論文標題 Phase II Trial of Trastuzumab and Docetaxel in Patients With Human Epidermal Growth Factor Receptor 2 Positive Salivary Duct Carcinoma	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 125 ~ 134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1200/JCO.18.00545	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakai Kazuko, Ohira Tatsuo, Matsubayashi Jun, Yoneshige Azusa, Ito Akihiko, Mitsudomi Tetsuya, Nagao Toshitaka, Iwamatsu Emi, Katayama Jin, Ikeda Norihiko, Nishio Kazuto	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Performance of Oncomine Fusion Transcript kit for formalin fixed, paraffin embedded lung cancer specimens	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.14016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyazaki Masaru, Aoki Mikiko, Koga Kaori, Hamasaki Makoto, Sugiyama Yoshikazu, Midorikawa Kensuke, Hamatake Daisuke, Masaki Michio, Takamatsu Yasushi, Iwasaki Akinori, Sakata Toshifumi, Nagao Toshitaka, Nabeshima Kazuki	4. 巻 46
2. 論文標題 Adenoid cystic carcinoma with high-grade transformation forming spindle cell component of the submandibular gland	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Auris Nasus Larynx	6. 最初と最後の頁 934-939
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.anl.2019.01.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hatabu Naomi, Katori Naho, Sato Takeshi, Maeda Naonori, Suzuki Eri, Komiyama Osamu, Tsutsui Hidemitsu, Nagao Toshitaka, Nakauchi-Takahashi Hana, Matsunaga Tatsuo, Ishii Tomohiro, Hasegawa Tomonobu, Yamazawa Kazuki	4. 巻 92
2. 論文標題 A Familial Case of a Whole Germline CDC73 Deletion Discordant for Primary Hyperparathyroidism	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hormone Research in Paediatrics	6. 最初と最後の頁 56-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000495800	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kurata Atsushi, Saito Akira, Hashimoto Hirotsugu, Fujita Koji, Ohno Shin-ichiro, Kamma Hiroshi, Nagao Toshitaka, Kobayashi Shigeto, Yamashina Akira, Kuroda Masahiko	4. 巻 29
2. 論文標題 Difference in immunohistochemical characteristics between Takayasu arteritis and giant cell arteritis: It may be better to distinguish them in the same age	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Modern Rheumatology	6. 最初と最後の頁 992-1001
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14397595.2019.1570999	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kamoda Naohiro, Ohori Makoto, Hirasawa Yosuke, Inoue Rie, Hashimoto Takeshi, Satake Naoya, Gondo Tatsuo, Nakagami Yoshihiro, Nagao Toshitaka, Ohno Yoshio	4. 巻 49
2. 論文標題 Prognostic significance of the presence of tertiary Gleason grade 5 in robot-assisted radical prostatectomy specimens in Japanese patients with clinically localized prostate cancer	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 276 ~ 280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyy194	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Seethala Raja R., Altemani Albina, Ferris Robert L., Fonseca Isabel, Gnepp Douglas R., Ha Patrick, Nagao Toshitaka, Skalova Alena, Stenman G?ran, Thompson Lester D. R.	4. 巻 143
2. 論文標題 Data Set for the Reporting of Carcinomas of the Major Salivary Glands: Explanations and Recommendations of the Guidelines From the International Collaboration on Cancer Reporting	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Archives of Pathology & Laboratory Medicine	6. 最初と最後の頁 578 ~ 586
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5858/arpa.2018-0422-SA	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Hideaki, Tada Yuichiro, Saotome Takashi, Akazawa Kohei, Ojiri Hiroya, Fushimi Chihiro, Masubuchi Tatsuo, Matsuki Takashi, Tani Kaori, Osamura Robert Y., Hirai Hideaki, Yamada Shuhei, Kawakita Daisuke, Miura Kouki, Kamata Shin-etsu, Nagao Toshitaka	4. 巻 37
2. 論文標題 Phase II Trial of Trastuzumab and Docetaxel in Patients With Human Epidermal Growth Factor Receptor 2 Positive Salivary Duct Carcinoma	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 125 ~ 134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1200/JCO.18.00545	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wang Changshan, Oshima Motohiko, Sato Daisuke, Matsui Hirotaka, Kubota Sho, Aoyama Kazumasa, Nakajima-Takagi Yaeko, Koide Shuhei, Matsubayashi Jun, Mochizuki-Kashio Makiko, Nakano-Yokomizo Takako, Bai Jie, Nagao Toshitaka, Kanai Akinori, Iwama Atsushi, Sashida Goro	4. 巻 128
2. 論文標題 Ezh2 loss propagates hypermethylation at T cell differentiation?regulating genes to promote leukemic transformation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Investigation	6. 最初と最後の頁 3872 ~ 3886
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1172/JCI94645	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Urano Makoto, Hirai Hideaki, Tada Yuichiro, Otsuka Kuninori, Watanabe Yoshihiro, Sakai Akihiro, Ebisumoto Koji, Togashi Takafumi, Ueki Yushi, Ota Hisayuki, Sato Yukiko, Saigusa Natsuki, Nakaguro Masato, Hanazawa Toyoyuki, Nagao Toshitaka	4. 巻 73
2. 論文標題 The high expression of FOXA1 is correlated with a favourable prognosis in salivary duct carcinomas: a study of 142 cases	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Histopathology	6. 最初と最後の頁 943 ~ 952
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/his.13706	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tamura Atsumi, Tsutsui Hidemitsu, Yano Yukiko, Ohara Ryoji, Hoshi Masae, Nagai Takeshi, Nagao Toshitaka, Ikeda Norihiko	4. 巻 48
2. 論文標題 Thermal effects of the Thunderbeat device on the recurrent laryngeal nerve during thyroid surgery	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Surgery Today	6. 最初と最後の頁 1076 ~ 1080
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00595-018-1692-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 片岡 俊朗, 加藤 生真, 山中 正二, 折館 伸彦, 長尾 俊孝, 大橋 健一	4. 巻 35
2. 論文標題 唾液腺腺房細胞癌の再検討により発見された分泌癌の3例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 診断病理	6. 最初と最後の頁 118-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohta Y., Norose T., Ohike N., Takiguchi S., Murayama M., Kobayashi S., Shiokawa A., Nagao T.	4. 巻 29
2. 論文標題 A case of secretory carcinoma of the parotid gland provides cytological clues for the differential diagnosis of this disease	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cytopathology	6. 最初と最後の頁 375-379
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1111/cyt.12548	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shigefuku Shunsuke, Kudo Yujin, Yunaiyama Daisuke, Matsubayashi Jun, Park Jinho, Nagao Toshitaka, Shimada Yoshihisa, Saji Hisashi, Hagiwara Masaru, Okano Tetsuya, Kakahana Masatoshi, Kajiwara Naohiro, Ohira Tatsuo, Ikeda Norihiko	4. 巻 10
2. 論文標題 Prognostic factors for surgically resected non-small cell lung cancer with cavity formation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Thoracic Disease	6. 最初と最後の頁 973 ~ 983
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.21037/jtd.2018.01.61	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murakami Koutaro, Kudo Yujin, Kakahana Masatoshi, Matsubayashi Jun, Okano Tetsuya, Shimada Yoshihisa, Nagao Toshitaka, Kajiwara Naohiro, Ohira Tatsuo, Ikeda Norihiko	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Granulocyte colony stimulating factor-producing lung cancer with severe anemia of inflammation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 General Thoracic and Cardiovascular Surgery	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1007/s11748-018-0914-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kikuchi Kentaro, Nagao Toshitaka, Ide Fumio, Takizawa Shota, Sakashita Hideaki, Tsujino Ichiro, Li Tie-Jun, Kusama Kaoru	4. 巻 13
2. 論文標題 Palatal Polymorphous Adenocarcinoma with High-Grade Transformation: A Case Report and Literature Review	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Head and Neck Pathology	6. 最初と最後の頁 131-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1007/s12105-018-0916-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakaguro Masato, Urano Makoto, Suzuki Hiroaki, Yamada Kazuyuki, Sakaguchi Asumi, Ogura Kanako, Matsumoto Toshiharu, Ono Noritsugu, Asato Tsuguharu, Mikami Yoshiki, Imai Hiroshi, Nagao Toshitaka	4. 巻 73
2. 論文標題 Low-Grade Intraductal Carcinoma of the Salivary Gland with Prominent Oncocytic Change: A Newly Described Variant	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Histopathology	6. 最初と最後の頁 314-320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1111/his.13517	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fukami Shinjiro, Nakajima Nobuyuki, Okada Hirofumi, Akimoto Jiro, Miki Tamotsu, Fukuhara Hirokazu, Shishido-Hara Yukiko, Nagao Toshitaka, Tsuda Masumi, Kohno Michihiro	4. 巻 114
2. 論文標題 Pathologic Findings and Clinical Course of Midline Paraventricular Gliomas Diagnosed Using a Neuroendoscope	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 World Neurosurgery	6. 最初と最後の頁 366-377
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1016/j.wneu.2018.02.185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimura Tomotaka, Tada Yuichiro, Hirai Hideaki, Nagao Toshitaka	4. 巻 9
2. 論文標題 Prognostic and histogenetic roles of gene alteration and the expression of key potentially actionable targets in salivary duct carcinomas	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oncotarget	6. 最初と最後の頁 1852-1867
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.18632/oncotarget.22927	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Enomoto Ai, Sato Eiichi, Yasuda Takashi, Isomura Tatsuya, Nagao Toshitaka, Chikazu Daichi	4. 巻 74
2. 論文標題 Intraepithelial CD8+ lymphocytes as a predictive diagnostic biomarker for the remission of oral lichen planus	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Human Pathology	6. 最初と最後の頁 43 ~ 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1016/j.humpath.2017.12.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tando So, Nagao Toshitaka, Kayano Kaori, Fushiki Shinji, Itoh Kyoko	4. 巻 68
2. 論文標題 High-grade transformation/dedifferentiation of an adenoid cystic carcinoma of the minor salivary gland to myoepithelial carcinoma	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Pathology International	6. 最初と最後の頁 133 ~ 138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1111/pin.12624	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fushimi C, Tada Y, Takahashi H, Nagao T, Ojiri H, Masubuchi T, Matsuki T, Miura K, Kawakita D, Hirai H, Hoshino E, Kamata S, Saotome T	4. 巻 29
2. 論文標題 A prospective phase II study of combined androgen blockade in patients with androgen receptor-positive metastatic or locally advanced unresectable salivary gland carcinoma	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Annals of Oncology	6. 最初と最後の頁 979 ~ 984
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1093/annonc/mdx771	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takase Soichiro, Kano Satoshi, Tada Yuichiro, Nagao Toshitaka	4. 巻 8
2. 論文標題 Biomarker immunoprofile in salivary duct carcinomas: clinicopathological and prognostic implications with evaluation of the revised classification	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oncotarget	6. 最初と最後の頁 59023-59035
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.18632/oncotarget.19812	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Harada Taiyo L, Saito Kazuhiro, Araki Yoichi, Matsubayashi Jun, Nagao Toshitaka, Sugimoto Katsutoshi, Tokuyue Koichi	4. 巻 59
2. 論文標題 Prediction of high-stage liver fibrosis using ADC value on diffusion-weighted imaging and quantitative enhancement ratio at the hepatobiliary phase of Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI at 1.5T	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Acta Radiologica	6. 最初と最後の頁 509 ~ 516
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1177/0284185117725778	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kujiraoka Satoko, Tsunematsu Takaaki, Sato Yukiko, Nagao Toshitaka, Miyamoto Youji, Ishimaru Naozumi, Kudo Yasusei	4. 巻 69
2. 論文標題 Establishment and characterization of a clear cell odontogenic carcinoma cell line with EWSR1-ATF1 fusion gene	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oral Oncology	6. 最初と最後の頁 46 ~ 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1016/j.oraloncology.2017.04.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikawa Hiroaki, Koto Masashi, Takagi Ryo, Ebner Daniel K., Hasegawa Azusa, Naganawa Kensuke, Takenouchi Toshinao, Nagao Toshitaka, Nomura Takeshi, Shibahara Takahiko, Tsuji Hiroshi, Kamada Tadashi	4. 巻 123
2. 論文標題 Prognostic factors of adenoid cystic carcinoma of the head and neck in carbon-ion radiotherapy: The impact of histological subtypes	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Radiotherapy and Oncology	6. 最初と最後の頁 387 ~ 393
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1016/j.radonc.2017.04.026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fukuda Tetsuya, Nomura Masaharu, Kato Yasufumi, Tojo Hiromasa, Fujii Kiyonaga, Nagao Toshitaka, Bando Yasuhiko, Fehniger Thomas E., Marko-Varga Gyrgy, Nakamura Haruhiko, Kato Harubumi, Nishimura Toshihide	4. 巻 12
2. 論文標題 A selected reaction monitoring mass spectrometric assessment of biomarker candidates diagnosing large-cell neuroendocrine lung carcinoma by the scaling method using endogenous references	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e176219 ~ e176219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1371/journal.pone.0176219	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ueda Shunichiro, Usui Yoshihiko, Nagai Takeshi, Diaz-Aguilar Daniel, Nagao Toshitaka, Goto Hiroshi	4. 巻 61
2. 論文標題 Immunophenotypic profiles for distinguishing orbital mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma from benign lymphoproliferative tumors	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Ophthalmology	6. 最初と最後の頁 354 ~ 360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1007/s10384-017-0513-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Oide Takashi, Hiroshima Kenzo, Takahashi Yoko, Fugo Kazunori, Yamatoji Masanobu, Kasamatsu Atsushi, Endo-Sakamoto Yosuke, Shiiba Masashi, Uzawa Katsuhiko, Tanzawa Hideki, Nagao Toshitaka, Nakatani Yukio	4. 巻 67
2. 論文標題 Mucoepidermoid carcinoma with extensive spindle morphology and melanocytic marker expression	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Human Pathology	6. 最初と最後の頁 181 ~ 186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1016/j.humpath.2017.03.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nibu Ken-ichi, Hayashi Ryuichi, Asakage Takahiro, Nagao Toshitaka, Nakatsuka Takashi	4. 巻 44
2. 論文標題 Japanese Clinical Practice Guideline for Head and Neck Cancer	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Auris Nasus Larynx	6. 最初と最後の頁 375 ~ 380
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1016/j.anl.2017.02.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hongo-Kohama Masako, Kurata Atsushi, Hashimoto Hirotsugu, Fujita Koji, Horiuchi Hajime, Nagao Toshitaka, Kuroda Masahiko	4. 巻 36
2. 論文標題 Vascular Smooth Muscle Cell Maturation Stage and Ki-67 Index are Diagnostic Biomarkers for Pathologic Grade of Ovarian Teratoma	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Gynecological Pathology	6. 最初と最後の頁 582 ~ 592
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1097/PGP.0000000000000373	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawamoto Atsuo, Hatano Tadashi, Saito Kazuhiro, Inoue Rie, Nagao Toshitaka, Sanada Shigeru	4. 巻 45
2. 論文標題 Sonographic classification of testicular tumors by tissue harmonic imaging: experience of 58 cases	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Medical Ultrasonics	6. 最初と最後の頁 103 ~ 111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1007/s10396-017-0783-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Reisuke H., Nagao Toshitaka, Gouras Gunnar K.	4. 巻 67
2. 論文標題 Plaque formation and the intraneuronal accumulation of β -amyloid in Alzheimer's disease	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Pathology International	6. 最初と最後の頁 185 ~ 193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1111/pin.12520	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Umehara R, Kurata A, Takanashi M, Hashimoto H, Fujita K, Nagao T, Kuroda M	4. 巻 38
2. 論文標題 Fascin as a useful marker for identifying neural components in immature teratomas of human ovary and those derived from murine embryonic stem cells	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Gynecol Pathol	6. 最初と最後の頁 377-385
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuwabara H, Yamamoto K, Terada T, Nagao T, Kawata R, Hirose Y	4. 巻 3
2. 論文標題 Hemorrhage of MRI and immunohistochemical panels distinguish secretory carcinoma from acinic cell carcinoma	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Laryngoscope Investig Otolaryngol	6. 最初と最後の頁 268-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長尾 俊孝	4. 巻 36
2. 論文標題 【頭頸部腫瘍I】 唾液腺腫瘍 唾液腺腫瘍2017WHO分類改訂のポイント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 病理と臨床	6. 最初と最後の頁 216-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河口 洋平, 岡野 哲也, 垣花 昌俊, 梶原 直央, 大平 達夫, 丸野 恵大, 小泉 信達, 荻野 均, 平井 秀明, 帯包 妃代, 長尾 俊孝, 池田 徳彦, 仁木 利郎	4. 巻 57
2. 論文標題 肺血栓塞栓症が疑われた肺動脈内膜肉腫の1例	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 肺癌	6. 最初と最後の頁 875-876
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長尾 俊孝	4. 巻 63
2. 論文標題 唾液腺病理の新展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 耳鼻と臨床	6. 最初と最後の頁 S12-S15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷川 真希, 長尾 俊孝	4. 巻 9
2. 論文標題 【頭頸部悪性腫瘍の疑問に答える】 病因・病態理解 唾液腺腫瘍の組織像が多様な理由を教えてください	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 JOHNS	6. 最初と最後の頁 1089-1091
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷川 真希, 山科 光正, 長尾 俊孝	4. 巻 35
2. 論文標題 【病理診断に直結した組織学】 頭頸部 大唾液腺	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 病理と臨床	6. 最初と最後の頁 123-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計68件 (うち招待講演 26件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Shigefuku S, Kudo Y, Yunaiyama D, Matsubayashi J, Park J, Nagao T, Shimada Y, Kajiwara N, Ohira T, Ikeda N
2. 発表標題 Prognostic factors for surgically resected non-small cell lung cancer
3. 学会等名 The 65th Annual Congress of International College of surgeons Japan Section (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中 健彦、長尾 俊孝他
2. 発表標題 The Role of Quantitative Metabolic Metrics on FDG-PET/CT in predicting pathological Invasive Factors in cN0 Lung Adenocarcinoma
3. 学会等名 第183回東京医科大学医学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大原 万理恵、長尾 俊孝他
2. 発表標題 血管周囲リンパ球浸潤と脱髄・軸索崩壊を示した、中枢神経系の炎症性疾患2症例の病理学的検討
3. 学会等名 第108回日本病理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅井 沙月、長尾 俊孝他
2. 発表標題 高悪性度成分が主体であった乳腺相分泌癌の一例
3. 学会等名 第108回日本病理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒井 誠大、長尾 俊孝他
2. 発表標題 急性肝炎に伴う急性腎障害に対し、血漿交換療法で治療したBile cast nephropathyの一例
3. 学会等名 第64回日本透析医学会学術集会・総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤 優、長尾 俊孝他
2. 発表標題 非典型溶血性尿毒症症候群(aHUS)を呈し、血漿交換・エクリズマブ投与を行うも透析に至った一例
3. 学会等名 第64回日本透析医学会学術集会・総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 工藤 勇人、長尾 俊孝他
2. 発表標題 当院におけるEGFR遺伝子変異検査に対するLiquid BiopsyとTissue Biopsyの現状
3. 学会等名 第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中 裕紀、長尾 俊孝他
2. 発表標題 当院における進行・再発非小細胞肺癌に対する気管支鏡検体を用いたPD-L1検査の現状
3. 学会等名 第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河合 優佑、長尾 俊孝他
2. 発表標題 血清抗p53抗体強陽性を示した若年発症の食道胃接合部癌の1例
3. 学会等名 日本消化器病学会関東支部第355回例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊地 美穂、長尾 俊孝他
2. 発表標題 診断に針生検が有用であった黄色肉芽腫性腫瘤の1例
3. 学会等名 第356回日本消化器病学会関東支部例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三宅 真司、長尾 俊孝他
2. 発表標題 肺癌細胞診の可能性-鑑別と限界- 扁平上皮癌の鑑別と限界
3. 学会等名 第58回日本臨床細胞学会秋季大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣島 健三、長尾 俊孝他
2. 発表標題 新たな肺癌細胞診判定区分の提案
3. 学会等名 第60回日本肺癌学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺癌の病理診断：その実際と新たな展開
3. 学会等名 第50回日本病理学会関東支部・千葉地区集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥山 茜、長尾 俊孝他
2. 発表標題 嚢胞を有する耳下腺腫瘍の1例
3. 学会等名 第50回日本病理学会関東支部・千葉地区集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山 里佳子、長尾 俊孝他
2. 発表標題 胸腺カルチノイドの細胞学的検討
3. 学会等名 第58回日本臨床細胞学会秋期大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三枝 奈津季、長尾 俊孝他
2. 発表標題 The immune checkpoint inhibitor expression and tumor microenvironment in salivary duct carcinomas
3. 学会等名 第184回東京医科大学医学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田 拓朗、長尾 俊孝他
2. 発表標題 唾液腺癌に対するカルボプラチン、ドセタキセル併用療法に関する後方視的研究
3. 学会等名 第184回東京医科大学医学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木 佳苗、長尾 俊孝他
2. 発表標題 上顎歯肉から発生した多形腺腫由来上皮筋上皮癌の一例
3. 学会等名 第58回日本臨床細胞学会秋期大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田 恭子、長尾 俊孝他
2. 発表標題 Warthin-like mucoepidermoid carcinomaの1例
3. 学会等名 第58回日本臨床細胞学会秋期大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井 秀明、長尾 俊孝他
2. 発表標題 唾液腺導管癌における脂質関連蛋白発現の臨床病理学的意義
3. 学会等名 第64回日本唾液腺学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 甲状腺・唾液腺疾患の病理
3. 学会等名 第87回日本病理学会近畿支部学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊地 美穂、長尾 俊孝他
2. 発表標題 術後再発を来した食道癌肉腫の一例
3. 学会等名 第353回日本消化器病学会 関東支部例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井 秀明、長尾 俊孝他
2. 発表標題 唾液腺導管癌ではadipophilinの発現が予後不良因子となりうる
3. 学会等名 第108回日本病理学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 工藤 勇人、長尾 俊孝他
2. 発表標題 非小細胞肺癌根治切除例における再発後の外科的治療の現状(英語)
3. 学会等名 第36回日本呼吸器外科学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榎本 愛、長尾 俊孝他
2. 発表標題 口腔扁平苔癬における上皮内へのCD8 (+) リンパ球浸潤は寛解の予測因子となりうる
3. 学会等名 第108回日本病理学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横田 章、長尾 俊孝他
2. 発表標題 グリコーゲン含有による明細胞化を伴った唾液腺オンコサイトーマの一例
3. 学会等名 第60回日本臨床細胞学会総会(春期大会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 垣花 昌俊、長尾 俊孝他
2. 発表標題 体腔液の細胞診の進化 術中胸腔洗浄細胞診に出現する細胞像の特徴
3. 学会等名 第60回日本臨床細胞学会総会(春期大会)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松林 純、長尾 俊孝他
2. 発表標題 肺癌治療と細胞診の活用 肺癌の治療における細胞診断の役割 総論的な立場で
3. 学会等名 第60回日本臨床細胞学会総会（春期大会）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷川 真希、長尾 俊孝他
2. 発表標題 唾液腺細胞診ミラノシステム-症例を通じてミラノシステムを体験する- 唾液腺穿刺吸引細胞診のミラノシステムを用いた症例検討
3. 学会等名 第60回日本臨床細胞学会総会（春期大会）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本 善也、長尾 俊孝他
2. 発表標題 胸腺原発MALTリンパ腫2例の細胞学的検討
3. 学会等名 第60回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 忽滑谷 昌平、長尾 俊孝他
2. 発表標題 術中迅速診断で腺癌との鑑別に苦慮した硬化性肺胞上皮腫の2例
3. 学会等名 第60回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣島 健三、長尾 俊孝他
2. 発表標題 肺癌細胞診の判定基準: 新たな肺癌診療の時代に向けて JSCC-JLCSによる新たな判定基準の提案
3. 学会等名 第60回日本臨床細胞学会総会(春期大会)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大平 達夫、長尾 俊孝他
2. 発表標題 肺癌に対するLiquid-based cytology検体を用いた遺伝子検査
3. 学会等名 第60回日本臨床細胞学会総会(春期大会)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田 奈津子、長尾 俊孝他
2. 発表標題 耳下腺原発神経内分泌腫瘍の一例
3. 学会等名 第60回日本臨床細胞学会総会(春期大会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺腫瘍の細胞診と病理診断
3. 学会等名 第33回関東臨床細胞学会学術集会、第38回東京都臨床細胞学会総会・学術集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永井 麻梨恵、長尾 俊孝他
2. 発表標題 経口プレドニゾロンが著効した腎サルコイドーシスの1例
3. 学会等名 第655回日本内科学会関東地方会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本多 将吾、長尾 俊孝他
2. 発表標題 類内膜型の形態・発現を示す低異型度子宮頸部腺癌の一例
3. 学会等名 第51回日本婦人科病理学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺腫瘍の病理と細胞診
3. 学会等名 第34回 宮城県臨床細胞学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺腫瘍のおさえておきたい病理と細胞診
3. 学会等名 第24回 神奈川県細胞検査士会学術研修会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口 真由実, 松林 純, 三宅 真司, 石原 里佳子, 忽滑谷 昌平, 山科 光正, 谷川 真希, 垣花 昌俊, 大平 達夫, 池田 徳彦, 長尾 俊孝
2. 発表標題 肺原発上皮筋上皮癌の1例
3. 学会等名 日本臨床細胞学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷川 真希, 三宅 真司, 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺細胞診ミラノシステムの実際の運用と問題点 唾液腺穿刺吸引細胞診の新たな報告様式の有用性
3. 学会等名 日本臨床細胞学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲垣 敦史, 三宅 真司, 長尾 俊孝
2. 発表標題 症例から学ぶ唾液腺穿刺吸引細胞診の基本 唾液腺多形腺腫の細胞判定
3. 学会等名 日本臨床細胞学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺腫瘍の病理と細胞診断
3. 学会等名 日本臨床細胞学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中黒 匡人, 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺腫瘍WHO分類2017・新規の組織型を理解する 導管内癌の疾患概念と診断
3. 学会等名 日本病理学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉浦 圭治, 上野 真, 大久保 諒, 長尾 佳奈, 二階堂 靖訓, 眞島 孝聡, 山口 浩, 長尾 俊孝
2. 発表標題 膵頭十二指腸切除術を機にmultiple endocrine neoplasia type 1の確定診断に至った一例
3. 学会等名 日本病理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 星野 都, 井上 勝元, 井上 ハルミ, 菊池 建太郎, 山内 雅司, 坂下 英明, 佐藤 由紀子, 竹内 賢吾, 長尾 俊孝, 草間 薫
2. 発表標題 淡明細胞リッチな類粘膜唾液腺癌(Clear cell-rich salivary gland carcinoma of the buccal mucosa)
3. 学会等名 日本病理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 頭頸部腫瘍新WHO国際分類について 唾液腺腫瘍と歯原性腫瘍を中心に 唾液腺腫瘍2017WHO分類 改訂のポイント
3. 学会等名 日本病理学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丹羽 一友, 多田 雄一郎, 岡本 伊作, 岡崎 雅, 増淵 達夫, 伏見 千宙, 岡田 拓朗, 馬場 大輔, 三浦 弘規, 長尾 俊孝, 塚原 清彰, 五月女 隆
2. 発表標題 唾液腺癌に対するニボルマブの早期治療効果と安全性の検討
3. 学会等名 日本唾液腺学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中黒 匡人, 浦野 誠, 平井 秀明, 谷川 真希, 多田 雄一郎, 塚原 清彰, 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺上皮筋上皮癌にはHRAS遺伝子変異が高率かつ特異的に認められる
3. 学会等名 日本唾液腺学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 耳下腺腫瘍の新たな治療戦略 耳下腺癌の病理診断 最近の進歩
3. 学会等名 日本唾液腺学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石原 里佳子, 松林 純, 三宅 真司, 小池 悦子, 前田 純一, 垣花 昌俊, 梶原 直尚, 大平 達夫, 池田 徳彦, 長尾 俊孝
2. 発表標題 異型カルチノイドの細胞学的検討
3. 学会等名 日本臨床細胞学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木 伸也, 若狭 朋子, 棟方 哲, 亀井 敏昭, 長尾 俊孝
2. 発表標題 平成28年度 施設認定年報報告からのデータ解析
3. 学会等名 日本臨床細胞学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 垣花 昌俊, 前田 純一, 松林 純, 三宅 真司, 大平 達夫, 梶原 直央, 筒井 英光, 河手 典彦, 長尾 俊孝, 池田 徳彦
2. 発表標題 末梢性小型肺野病変に対する術中捺印細胞診細胞像の検討
3. 学会等名 日本臨床細胞学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青野 卓矢, 有田 茂実, 酒井 えり, 高橋 司, 板倉 朋恵, 小高 亜紀子, 竹山 裕之, 杉山 孝弘, 伊丹 真紀子, 長尾 俊孝
2. 発表標題 多核巨細胞を多数伴った耳下腺肉腫の1例
3. 学会等名 日本臨床細胞学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡部 顕章, 三宅 真司, 谷川 真希, 小池 悦子, 高橋 礼典, 山口 浩, 原 由紀子, 松林 純, 長尾 俊孝
2. 発表標題 節外性低悪性度B細胞リンパ腫に対する穿刺吸引細胞診の有用性と限界 涙腺・唾液腺における低悪性度リンパ腫(MALTリンパ腫)に対する細胞診の有用性
3. 学会等名 日本臨床細胞学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshitaka Nagao
2. 発表標題 Tumor-like lesions of salivary glands
3. 学会等名 10th APIAP (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡部 顕章, 松林 純, 小池 悦子, 三宅 真司, 稲垣 敦史, 川内 ゆうか, 金子 清花, 忽滑谷 昌平, 平井 秀明, 高橋 礼典, 垣花 昌俊, 梶原 直央, 大平 達夫, 池田 徳彦, 長尾 俊孝
2. 発表標題 肺転移をきたした耳下腺筋上皮癌の1例
3. 学会等名 日本臨床細胞学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浦野 誠, 樋口 佳代子, 宮部 悟, 長尾 俊孝, 黒田 誠
2. 発表標題 唾液腺腫瘍の細胞診:新WHO分類を踏まえて 唾液腺分泌癌の細胞学的特徴と鑑別診断
3. 学会等名 日本臨床細胞学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺腫瘍の細胞診:新WHO分類を踏まえて 唾液腺腫瘍新WHO分類の解説
3. 学会等名 日本臨床細胞学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小川 郁子, 宮坂 知佳, 石田 光明, 藤澤 琢郎, 井原 遥, 長尾 俊孝, 高田 隆
2. 発表標題 浸潤性増殖を示した口蓋再発性多形腺腫の1例
3. 学会等名 日本唾液腺学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中黒 匡人, 浦野 誠, 長尾 俊孝
2. 発表標題 基底細胞腺腫と基底細胞腺癌はbeta-cateninの発現とCTNNB1遺伝子の変異を伴う
3. 学会等名 日本唾液腺学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺腫瘍新WHO国際分類の解説
3. 学会等名 日本唾液腺学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 忽滑谷 昌平, 三宅 真司, 小池 悦子, 稲垣 敦史, 山口 真由実, 川内 ゆうか, 金子 清花, 原 由紀子, 松林 純, 長尾 俊孝
2. 発表標題 腺様嚢胞癌との鑑別に苦慮した耳下腺基底細胞腺癌の1例
3. 学会等名 日本臨床細胞学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桑原 淳, 片桐 仁子, 渡部 顕章, 藤井 愛子, 鈴木 恵美子, 石原 里佳子, 五百部 浩昭, 三宅 真司, 平井 秀明, 長尾 俊孝
2. 発表標題 耳下腺原発リンパ上皮癌の1例
3. 学会等名 日本唾液腺学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 細胞診とIgG4関連疾患 有用性と限界 涙腺・唾液腺におけるIgG4関連疾患の病理と細胞診
3. 学会等名 日本臨床細胞学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平井 秀明, 多田 雄一郎, 長尾 俊孝
2. 発表標題 改めて見直す唾液腺腫瘍における免疫染色の実践的な臨床病理学的意義 唾液腺腫瘍の病理診断と治療の観点から見たHER2とAR染色の意義
3. 学会等名 日本病理学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中黒 匡人, 長尾 俊孝
2. 発表標題 改めて見直す唾液腺腫瘍における免疫染色の実践的な臨床病理学的意義 唾液腺腫瘍病理診断における汎用マーカーS-100蛋白の有用性とピットフォール
3. 学会等名 日本病理学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平井 秀明, 多田 雄一郎, 川北 大介, 志村 智隆, 塚原 清彰, 加納 里志, 小澤 宏之, 大上 研二, 佐藤 雄一郎, 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺導管癌ではFOXA1の発現が予後予測因子となる
3. 学会等名 日本病理学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 中黒 匡人、長尾 俊孝（編：伊藤 智雄）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金芳堂	5. 総ページ数 368
3. 書名 免疫染色究極マニュアル 第1版, 5 唾液腺	

1. 著者名 長尾 俊孝	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中山書店	5. 総ページ数 400
3. 書名 癌診療指針のための病理診断プラクティス 唾液腺/口腔・歯源性腫瘍	

1. 著者名 長尾 俊孝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 1892
3. 書名 外科病理学 第5版	

1. 著者名 中黒 匡人、長尾 俊孝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 460
3. 書名 免疫染色化学 実践的な診断・治療方針決定のために 第3部 3.唾液腺	

1. 著者名 中黒 匡人、長尾 俊孝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 100
3. 書名 病理と臨床 今月の話題 唾液腺腫瘍における遺伝子異常と病理診断	

1. 著者名 赤木忠厚、松原修、真鍋俊明、吉野正、小田義直、長尾俊孝	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 699
3. 書名 病理組織の見方と鑑別診断	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	多田 雄一郎 (Tada Yuichiro) (70292430)	国際医療福祉大学・医学部・准教授 (32206)	
研究分担者	山崎 一人 (Yamazaki Kazuto) (60302519)	帝京大学・医学部・教授 (32643)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	平井 秀明 (Hirai Hideaki) (00770744)	東京医科大学・医学部・助教 (32645)	